

お店屋さんごっこ

〈実施時期〉

5歳児

11月

○**わらい**:自分の身近にあるお店屋さんに興味を持ったり、言葉のやり取りを楽しむ。

○**内容**:それぞれが役割を持ってお店屋さんごっこをする。

(実際の教育活動と力をつけていく子どもの姿)

学年でクラスごとにそれぞれお店屋さんを出してお店屋さんごっこをしよう!という事になった。子ども達と相談した結果“お寿司屋さん”をする事になる。まずはどんなネタがあるのか、お店はどんな感じなのか、メニュー表はどんなものにするのか相談をした。しかし、なかなか意見がまとまらなかったため、その日はそれぞれに家族と相談したり、メニュー表を見てきてみよう!という事になった。翌日、子ども達とお寿司屋さんごっこの計画を立てた。お寿司のデリバリーのメニューを持ってきてくれる子や家族と相談してきた子も居て、それぞれの意見をまとめ、お寿司を作るコーナーと販売するコーナーをする事になった。早速コーナーごとに分かれてお寿司のネタやワサビ、シャリを入れておく桶やしゃもじ等、保育者も一緒になって準備を進めた。看板やメニュー表も子ども達で相談したものを具体的にこうしたら出来るのではないかと提案しながら皆で準備し、子ども達の期待も膨らんでいった。



お寿司屋さん当日は、「なんかこうゆう帽子かぶってるよね...」という子どものつぶやきから新聞紙で帽子も作り、お店屋さんごっこがスタートした。「いらっしゃいませ〜」「サーモンありますよ〜」「お持ち帰りも出来ますよ〜」と威勢よく声を掛けている子、お客さんにお寿司の作り方を教えながら楽しんでいる子等、それぞれがそれぞれの楽しみ方でお寿司屋さんをする事が出来た。当初の予定としては“お店屋さんごっこをしよう!”という、この期間のみの活動の予定であったが、子ども達の楽しむ姿から通常時の自由遊びにも取り入れる事で、異年齢交流の場にもなっていた。この活動を通して子ども達がどんどん発想力を広げ、豊かに表現したり、友達とのやり取りを通し、伝え合う喜びが味わえるようになってきた。

環 境	教員・保育士の支援
・画用紙や段ボールなどの廃材や子どもの意見を聞き必要なものを準備する。	・子ども達の意見を元に具体的に製作方法を検討したり、実現する事が難しいものに対して子ども達に問いかけ、改善策を考えられる様促す ・お客さんとして子ども達の言葉のきっかけを作り、やり取りを促す

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(幼稚園教育要領・保育所指導指針・幼保連携認定子ども園教育・保育要領より)

健康な心と体	○	思考力の芽生え	○
自立心		自然との関わり・生命尊重	
協同性	○	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	○
道徳性・規範意識の芽生え	○	言葉による伝え合い	○
社会生活との関わり	○	豊かな感性と表現	○

○小学校生活とのつながり

- ・友達や教師と意見を伝えあい、考えを共有できる力
- ・身近なものに興味を持ち、調べたり、相談して形にしていく力